

# 社会科「前半場面」の授業改善

～主体的な追究を生み出す課題設定と個人追究指導の在り方～

北栄小学校 深萱 健次

## 1 授業改善の視点

授業振り返り表より

- ・必然性のある課題づくり
- ・問題解決的な課題づくり
- ・個別指導

## 2 具体的な実践

### (1) 必然性のある課題設定

主体的な追究を生み出すのに、課題化は特に大切であると考えます。子どもたちにとって必然性のある課題は、より主体的な追究を生む。そこで主体的な追究の中で、子どもたちがつぶやく驚きや疑問を大切にしながら課題化を図っていくことで、子ども自身が課題を設定していけるようにする。

#### 【必然性のある課題を生み出す手順】

	学習活動	必然性を生む要件
1	<b>想起・確認 ・出会い</b>	前時までの資料からふり返りや、新しい資料の特徴を把握することから、全ての子どもが共通認識をもてるようにする。
2	<b>新たな出会い</b>	認識のずれが生まれるような資料を提示し、驚きや疑問を引き出し、それまでの認識との矛盾点を導き出す。
3	<b>課題作り</b>	子どもたちのつぶやきを集約・整理する。「～なのに、なぜ～」という課題を設定する。
4	<b>追究の見通し</b>	一人一人の予想を集約・整理し、視点を明確にする。
5	<b>資料選択</b>	視点をもとに、課題解決に必要な資料を明らかにする。

実際の授業場面において、教師の指導と児童の活動は、基本的に以下のように行った。

#### 【課題化の在り方】

	教師の指導・留意点	児童の学習活動
1	・資料や写真を活用し、提示する。 ・「この人は。」「どんな人。」と問う。	・写真や資料から話す。 ・事実の特徴をとらえて話す。 ・人と事実を関わらせて話す。

2	・資料を提示する。 ・「気付いたことはどんなこと」と問う。	・資料を見て、気付いたことを話す。 ・既習事項との相違点を意識して話す。
3	・新たな事実を提示し、「どう思うか」と問い、疑問・驚きを引き出す。	・先の事実との違いを見つける。 ・疑問・驚きを中心に話す。
4	・子どものつぶやきを集約・整理し、子どもの言葉をいかしながら課題を作る。 ・主語を明確にする。	・「～なのに、なぜ～」を意識して話す。 ・課題をノートに書き、赤で囲む。 ・全員で課題を読む。
5	・予想から視点を絞る。 ・「どんな資料が必要か」と問う。	・課題に対する予想を話す。 ・予想から追究資料を選択する。

### (2) 事実をもとにした個人追究

個人追究において、資料の事実をもとに追究することを大切に指導を進める。あくまでも資料の事実をもとに追究することで社会的見方や考え方を深めるような追究を生み出したいと考える。

#### 【個人追究の流れ】

- 1 追究視点をもとに資料選択する
- 2 資料の事実を左に書く。
- 3 事実から考えたことを右に書く。
- 4 事実と事実を結び、考えを深める。
- 5 別の資料の事実と結びつけたり、もう一度資料に立ち戻ったりして追究する。

\*ノートの真ん中に縦線を引き、2つに分けておく。

\*資料選択や事実認識に時間のかかる児童には、写真資料を提示する。

\*実態に応じて資料の種類を変える。

\*とらえさせたい事実は、色(赤・青)で強調する。

## 3 実践を振り返って考えられること

問題解決的な授業の導入から個人追究の在り方を整理したことで、教師の指導の要件が明確になった。そのことにより、資料の事実をもとにした主体的に追究する姿が増えた。